The background of the slide is a soft-focus photograph of a calm lake reflecting the surrounding green mountains and trees. The scene is misty, creating a serene and natural atmosphere. The text is overlaid on this background in a clean, black, sans-serif font.

平成31年度（令和元年度）
全国学力・学習状況調査の調査結果の活用による指導改善に向けた説明会

小学校の部

令和元年10月24日（木）
県立教育研究所

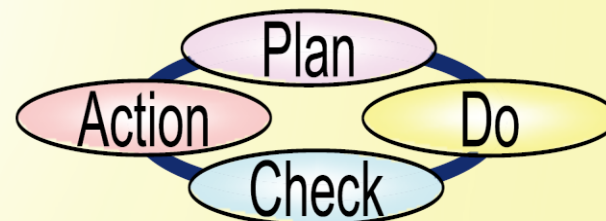
本日の内容

1. 全国学力・学習状況調査の目的について
2. 奈良県の調査結果とその特徴について
 - (1) 教科に関する調査結果
 - (2) 教科に関する調査の内容
 - (3) 質問紙に関する調査結果
3. レーダーチャートについて
4. 先生方をお願いしたいこと

1. 全国学力・学習状況調査の目的について

調査の目的

- 国としては、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析して、教育施策の改善・充実に生かす
- 教育委員会としては、自治体や学校の学力水準を検証し、教育委員会の施策の改善・充実に生かす
- 学校としては、個々の児童生徒の学習状況を把握し指導に生かすとともに、学校全体として指導方法の検証・改善につなげる
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する



2. 奈良県の調査結果とその特徴について

(1) 教科に関する調査結果

平成31年度全国学力・学習状況調査の結果（教科）

| | 平成31年度（令和元年度） | | | | | | |
|-----|----------------|--------------|----------------|--------------|-----------------|---------------|---------------------|
| | 国語 | | 算数・数学 | | 英語（※） | | 英語「話すこと」 全国（参考値） |
| | 全国 | 奈良県 | 全国 | 奈良県 | 全国 | 奈良県 | |
| 小学校 | 8.9/14 63.8 | 8.4/14 60 | 9.3/14 66.6 | 9.2/14 66 | | | |
| 中学校 | 7.3/10 72.8 | 7.2/10 72 | 9.6/16 59.8 | 9.5/16 59 | 11.8/21 56.0 | 11.7/21 56 | 1.5/5 30.8 |

※英語調査の結果は、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の合計。

※平成29年度から、国からの各都道府県別の平均正答率の提供が整数値となったため、奈良県の平均正答率は整数値で示しています。

| | 平成30年度 | | | | | | | |
|-----|-----------------|---------------|---------------|-------------|-----------------|---------------|----------------|--------------|
| | 国語 A | | 国語 B | | 算数・数学 A | | 算数・数学 B | |
| | 全国 | 奈良県 | 全国 | 奈良県 | 全国 | 奈良県 | 全国 | 奈良県 |
| 小学校 | 8.5/12 70.7 | 8.3/12 69 | 4.4/8 54.7 | 4.3/8 53 | 8.9/14 63.5 | 8.8/14 63 | 5.1/10 51.5 | 5.0/10 50 |
| 中学校 | 24.3/32 76.1 | 24.2/32 76 | 5.5/9 61.2 | 5.4/9 60 | 23.8/36 66.1 | 23.8/36 66 | 6.6/14 46.9 | 6.5/14 46 |

○小学校においては、全国平均正答数を国語で0.5ポイント、算数で0.1ポイント下回った。

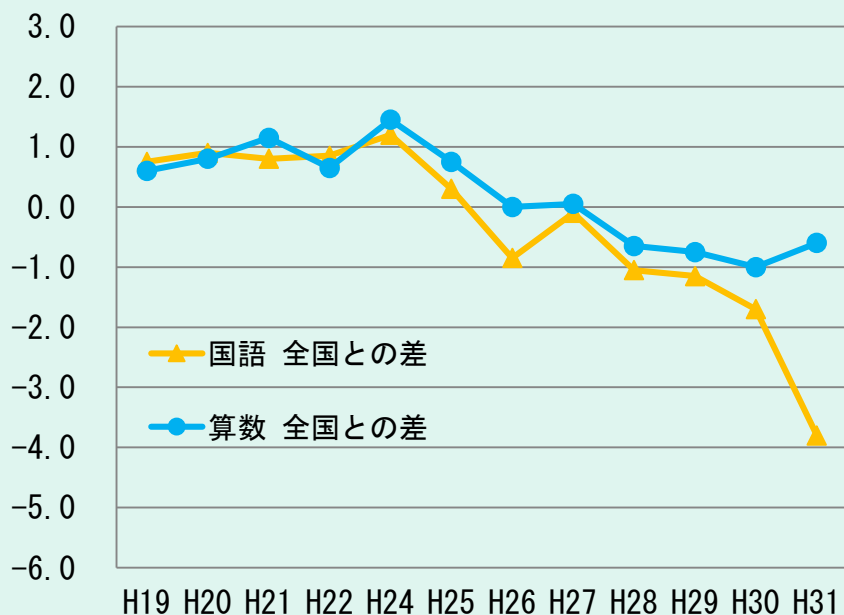
○中学校においては、国語、数学、英語の全ての調査において、全国平均正答数を0.1ポイント下回った。

(1) 教科に関する調査結果

国語及び算数・数学の平均正答率の全国平均との差

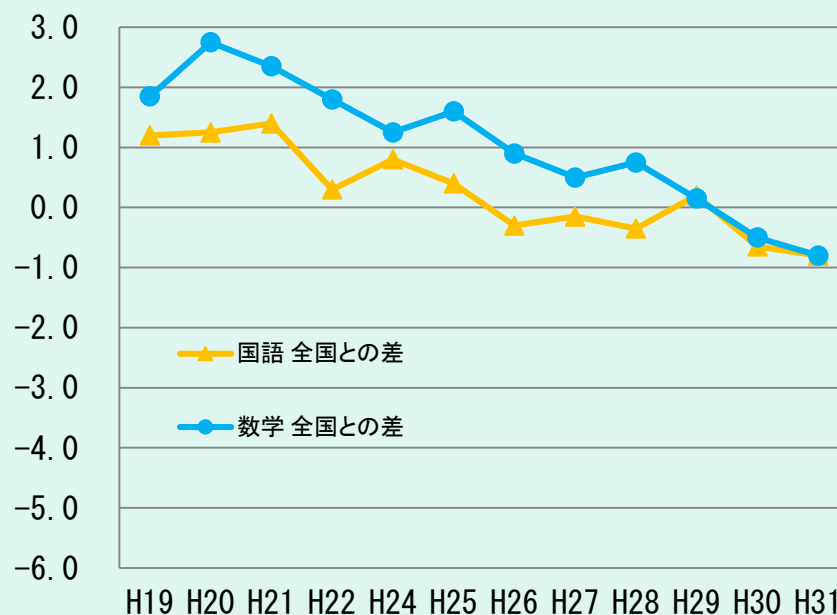
小学校

全国平均正答率との差



中学校

全国平均正答率との差



奈良県の児童生徒の学力は、相対的に下降傾向にある。

※ 平成29年度以降、各都道府県の平均正答率が整数値で公表されるようになったため、平成29年度以降の数値については±0.5ポイント程度の誤差があります。

(2) 教科に関する調査の内容

1 調べたことを報告する文章を書く（「公衆電話」）

出題の趣旨

設問三 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができるかどうかをみる。

1 高橋さんの学級では、生活の中で気になったことを調べ、友達に報告することになりました。高橋さんは、公衆電話について調べています。次は、高橋さんが書いている「報告する文章」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。



公衆電話について

高橋 めぐみ

1 はじめに

先日外出したときに、家に電話をかけようとして近くの店に行くと、あつたはずの公衆電話がなくなっていて、こまってしまいました。また、よく行く公園の公衆電話も、いつの間になくなっていました。わたしは、公衆電話の数が減っているのではないかと思い、町の公衆電話の数を調べてみることにしました。それをまとめたものが「資料1」です。平成二十年度から二十九年度までの十年間で、約半分にまで減っていることが分かりました。そこで、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうのかどうか調べてみることにしました。

2 調査の内容と結果

1) 公衆電話はどのようなときに必要なのか

多くの人がけいたい電話を持つ中で、公衆電話が必要とされているのかどうかを調べてみることにしました。そこで、地いきの人三十人を調査の「ア」たいしようとして、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。その理由をまとめてわたしたちが「資料2」です。「けいたい電話をわすれたときに必要」、「けいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答がありました。このことから、公衆電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされているということが分かりました。

2) 公衆電話にはどのような使い方や持ちようがあるのか

公衆電話について書かれた資料を調べてみると、公衆電話には、次のような使い方や持ちようがありました。
 ・警察署（110番）や消防署（119番）には、硬貨やテレホンカードがなくても通報することができます。
 ・停電のときでも、硬貨を使って通話することができます。
 ・電話が混み合っているときでも、優先的につながりやすい。
 このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができます。ということが分かりました。

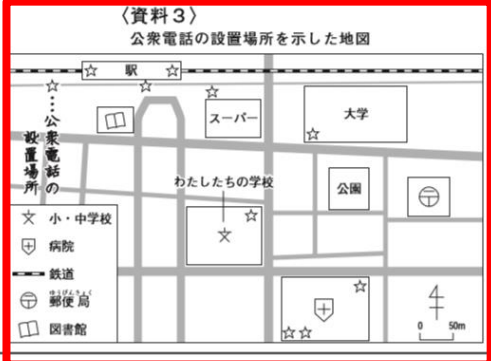
3) 公衆電話はどのような場所にあるのか

公衆電話が必要なときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。実際に町を歩いてまとめたものが「資料3」です。

3 調査の結果をもとに考えたこと

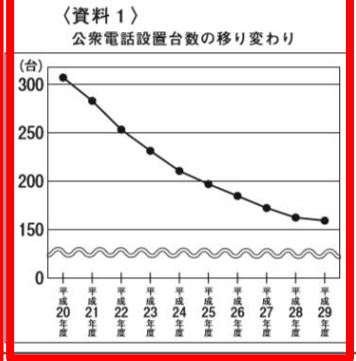
調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうわけではないと考えました。なぜなら、

また、公衆電話を使いたいときには、多くの人が集まる場所へ行けば見つけやすいのではないかと、いうことも考えました。今回の調査を通して知ったことを、学級の友達に「イ」かぎらず多くの友達に伝え、公衆電話について「ウ」かんしんをもってもらいたいと思います。



〈資料2〉
公衆電話が必要な理由のまとめ(複数回答)

| | |
|-----------------------------|-----|
| けいたい電話をわすれたときに必要 | 22人 |
| けいたい電話の電池が切れたときに必要 | 12人 |
| けいたい電話の使用が禁止されている場所にいるときに必要 | 5人 |
| けいたい電話の電波がとどかない場所にいるときに必要 | 4人 |
| けいたい電話や家の電話がつながりにくいときに必要 | 3人 |
| その他 | 5人 |



(2) 教科に関する調査の内容

学習指導要領における領域・内容
〔第5学年及び第6学年〕

B 書くこと

ウ 事実と感想、意見などとを区別
するとともに、目的や意図に応じて
簡単に書いたり詳しく書いたり
すること。

全国

正答率 28.8%
無回答率 3.8%

奈良県

正答率 27.3%
無回答率 4.6%

学習指導に当たって

- 調べて分かった事実から、自分の考えを支えるものとしてふさわしいものを取り上げ、自分の考えとの関係を十分に捉えて書くこと。
- 調べた目的と、調べた結果に基づく自分の考えとがずれることのないよう、自分の考えを確かめながら書くこと。

公しゆう電話は、主にけいたい電話を使うことができな
いとときに必要とされたり、きん急のときにも使うこ
とができたりするからです。(63字)

(正答例)

3 調査の結果をもとに考えたこと
調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要が
なくなってしまうわけではないと考えました。なぜなら、
また、公衆電話を使いたいときには、多くの人が集まる場所へ
行けば見つけやすいのではないかとこのことも考えました。
今回の調査を通して知ったことを、学級の友達にイカざらず
多くの友達に伝え、公衆電話についてウかんしんをもってもら
いたいと思います。

三 高橋さんは、「3 調査の結果をもとに考えたこと」の
に「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で
分かったことをまとめて書いています。に入る
内容を、次の条件に合わせて書きましよう。

【報告する文章】

(2) 教科に関する調査の内容

③ 計算の仕方の解釈と発展的な考察 (計算の工夫) 出題の趣旨

設問(2) 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除数に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述できるかどうかをみる。

ともやさんは、 $421 - 298$ や $600 - 201$ のようなくり下がりのあるひき算について、次のように計算しやすい式にして考えました。

【ともやさんの計算の仕方】

$$\begin{array}{r} 421 - 298 = \square \\ \downarrow +2 \quad \downarrow +2 \\ 423 - 300 = 123 \end{array} \quad \begin{array}{l} \curvearrowright \\ \text{変わらない} \end{array}$$

だから、 $421 - 298$ の答えの \square は、123です。

$$\begin{array}{r} 600 - 201 = \square \\ \downarrow -1 \quad \downarrow -1 \\ 599 - 200 = 399 \end{array} \quad \begin{array}{l} \curvearrowright \\ \text{変わらない} \end{array}$$

だから、 $600 - 201$ の答えの \square は、399です。



ゆいな

【ともやさんの計算の仕方】を見ると、ひき算では、ひかれる数とひく数に同じ数をたしても、ひかれる数とひく数から同じ数をひいても、差は変わらないのですね。

- (1) 【ともやさんの計算の仕方】をもとに、 $350 - 97$ について、計算しやすいようにひく数の97を100にした式で考えます。

$$\begin{array}{r} 350 - 97 = \square \\ \downarrow \quad \downarrow \\ \text{㊦} - 100 = \text{㊧} \end{array} \quad \begin{array}{l} \curvearrowright \\ \text{変わらない} \end{array}$$

だから、 $350 - 97$ の答えの \square は、 ㊨ です。

上の㊦、㊧、㊨に入る数を書きましょう。

ゆいなさんは、くり下がりのあるひき算を計算したときにもとにした考えをふり返って、次のようにまとめました。

【ゆいなさんがまとめたこと】

ひき算では、

ひかれる数とひく数に同じ数をたしても、

ひかれる数とひく数から同じ数をひいても、

差は変わりません。

このことを使うと、計算しやすいひき算の式で考えることができます。

(2) 教科に関する調査の内容

【ことねさんの計算の仕方】

$$\begin{array}{ccc} 400 \div 25 = \square & & \\ \downarrow \times 4 & \downarrow \times 4 & \nearrow \text{変わらない} \\ 1600 \div 100 = 16 & & \end{array}$$

だから、 $400 \div 25$ の答えの \square は、16 です。

$$\begin{array}{ccc} 90 \div 18 = \square & & \\ \downarrow \div 9 & \downarrow \div 9 & \nearrow \text{変わらない} \\ 10 \div 2 = 5 & & \end{array}$$

だから、 $90 \div 18$ の答えの \square は、5 です。

学習指導要領における領域・内容

〔第3学年〕A 数と計算

(2) 加法及び減法の計算が確実にできるようにし、それらを適切に用いる能力を伸ばす。

ウ 加法及び減法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

〔第4学年〕A 数と計算

(3) 整数の除法についての理解を深め、その計算が確実にできるようにし、それを適切に用いる能力を伸ばす。

エ 除法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

全国

正答率 31.1%

無回答率 10.8%

奈良県

正答率 29.5%

無回答率 13.7%

(正答例)

わられる数とわる数に同じ数をかけても、わられる数とわる数を同じ数でわっても、商は変わりません。

(2) ひき算について書かれた【ゆいなさんがまとめたこと】と同じように、わり算についても、【ことねさんの計算の仕方】をもとにまとめると、どのようになりますか。

下の \square の中に、「わられる数」、「わる数」、「商」の3つの言葉を使って書きましょう。

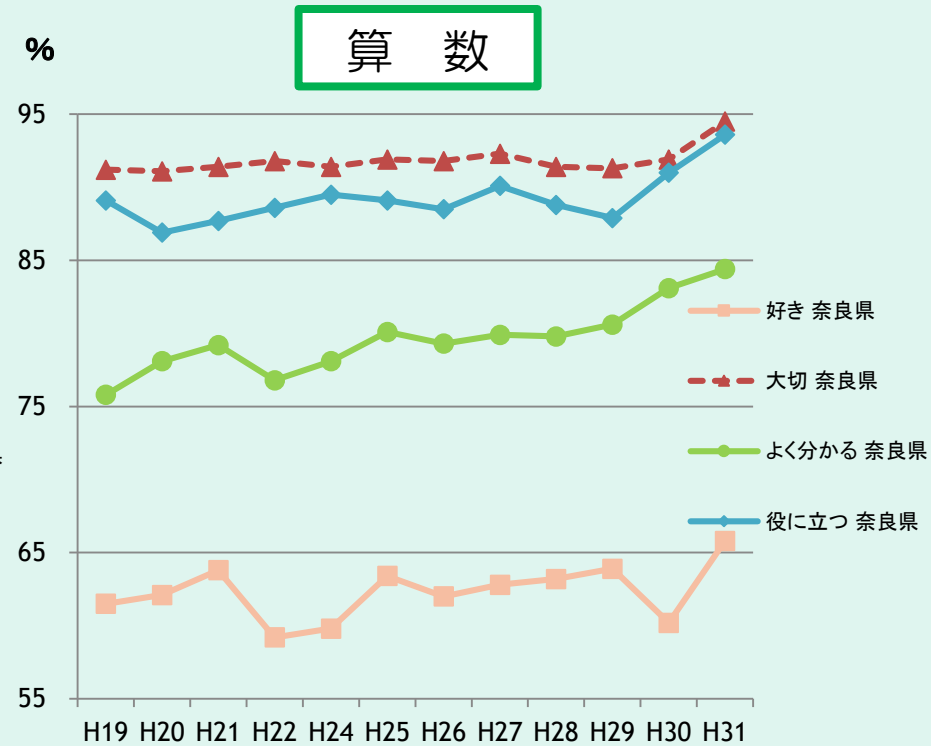
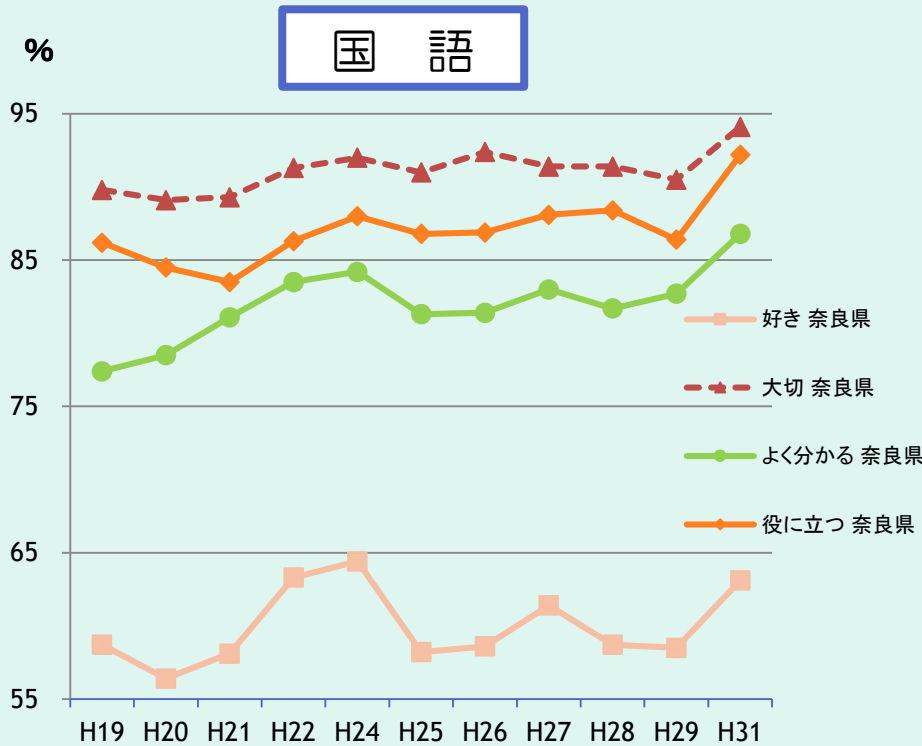
学習指導に当たって

○商が同じになる幾つかの除法の式を基に、除法に関して成り立つ性質を見いだす活動が考えられる。その際、被除数と除数や、商について、適用する数の範囲を広げていきながら、見いだしたことが他の数値の場合でも成り立つかどうかを確かめることができるようにすることが大切。

(3) 質問紙に関する調査結果

ア 学習意欲に関する状況

学習意欲に関する各質問項目に 肯定的な回答をした児童の割合の推移



※ 平成30年度は、算数・数学の学習意欲のみ。

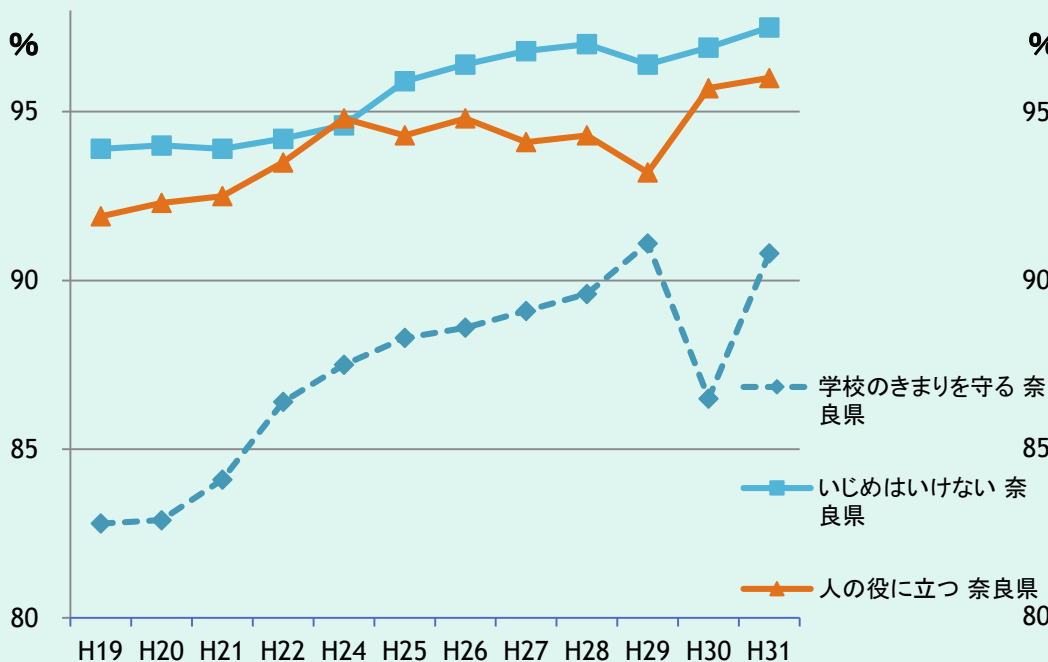
奈良県の児童の学習意欲は、わずかずつ上昇している。
また、全ての質問項目で、前回より肯定的な回答の割合が上昇している。

(3) 質問紙に関する調査結果

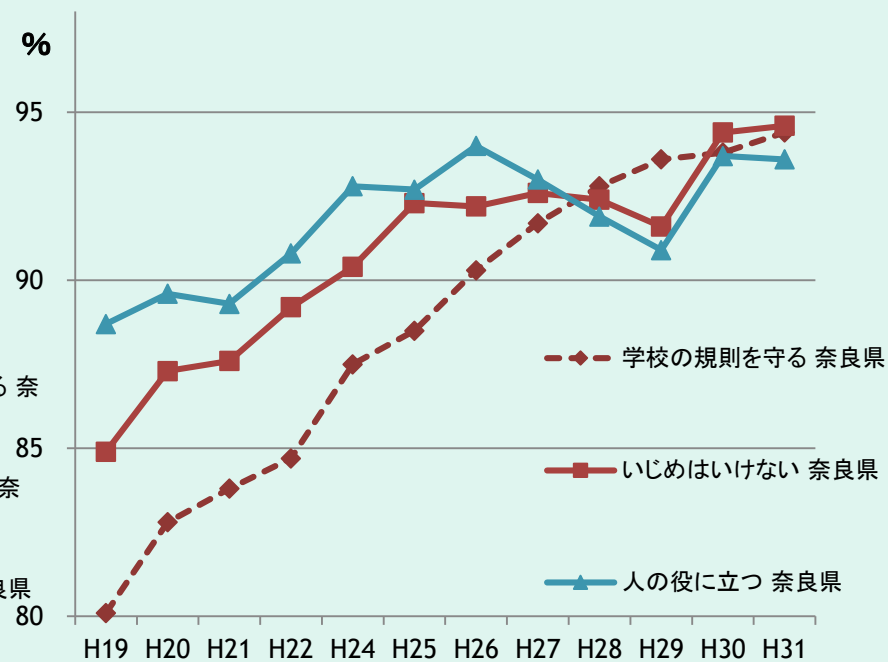
イ 規範意識に関する状況

規範意識に関する各質問項目に 肯定的な回答をした児童生徒の割合の推移

小学校



中学校



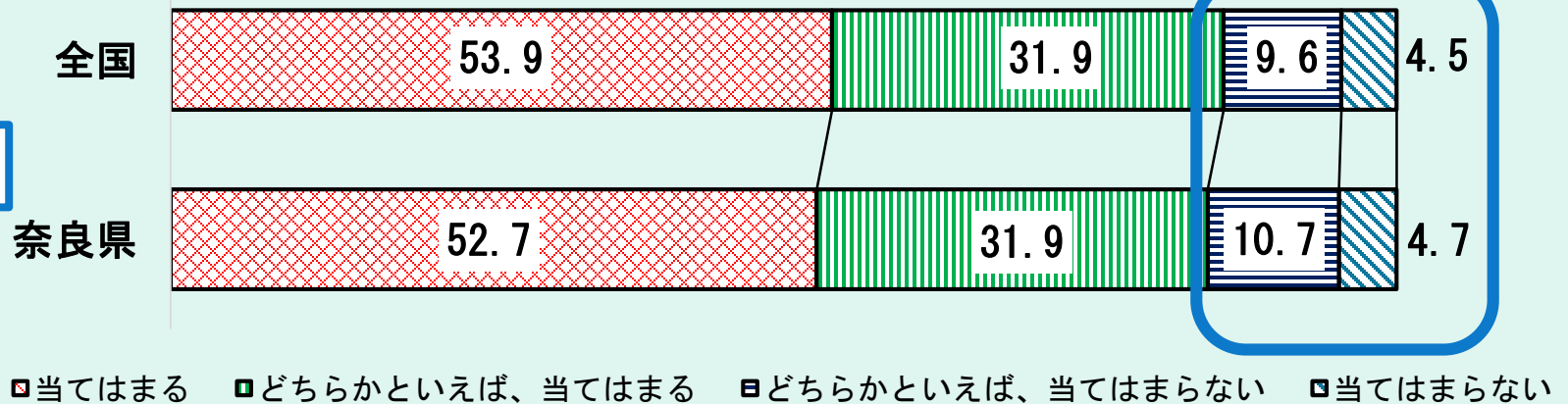
奈良県の児童生徒は、規範意識に関する質問について、いずれも9割以上が肯定的に回答している。

(3) 質問紙に関する調査結果

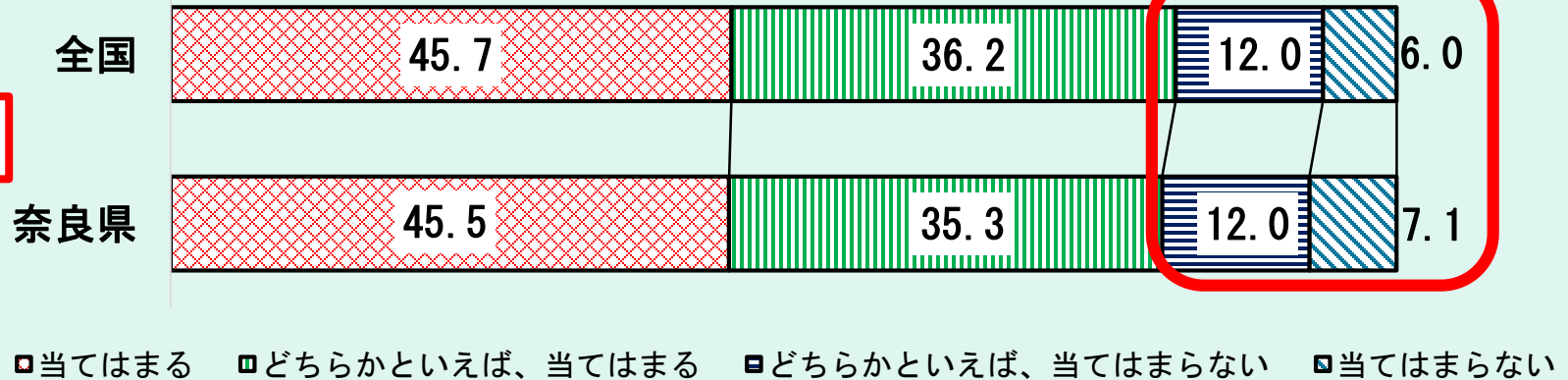
ウ 学習意欲と「学校が楽しい」

奈良県の結果と全国平均との比較

小学校



中学校



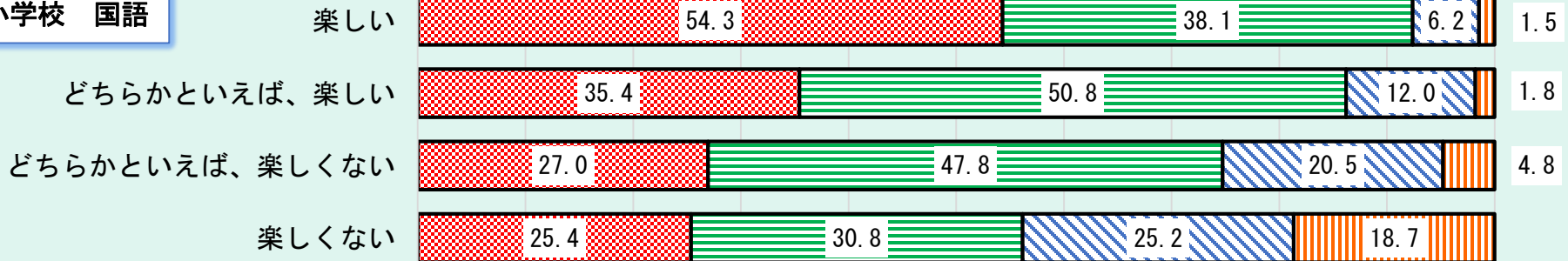
「学校が楽しい」と回答している児童生徒の割合は、全国平均に比べてわずかに低い状況である。

(3) 質問紙に関する調査結果

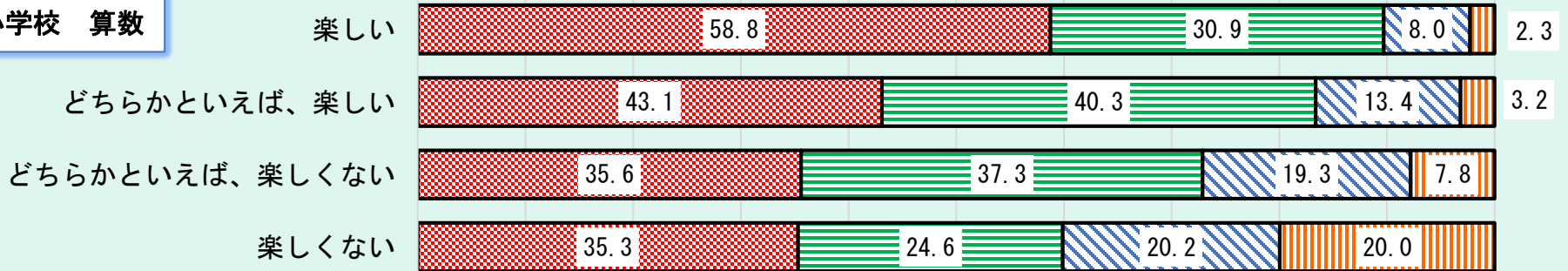
ウ 学習意欲と「学校が楽しい」

【学校が楽しい】と【教科の勉強が分かる】のクロス集計結果

小学校 国語



小学校 算数



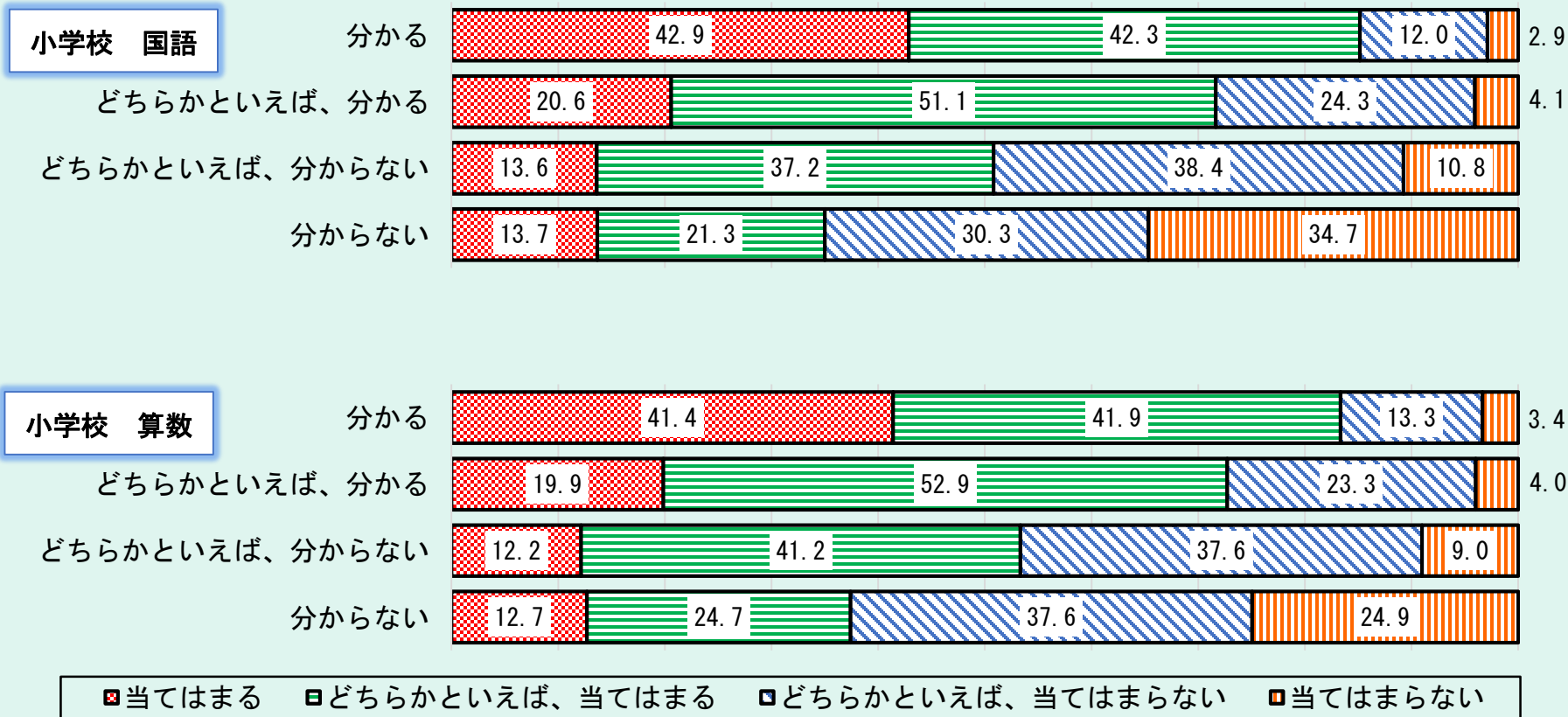
■分かる ■どちらかといえば、分かる ■どちらかといえば、分からない ■分からない

「学校が楽しい」と回答している児童ほど「教科の勉強が分かる」と回答している。

(3) 質問紙に関する調査結果

ウ 「教科の勉強が分かる」と主体的な学び

【教科の勉強が分かる】と【主体的な学び】のクロス集計結果

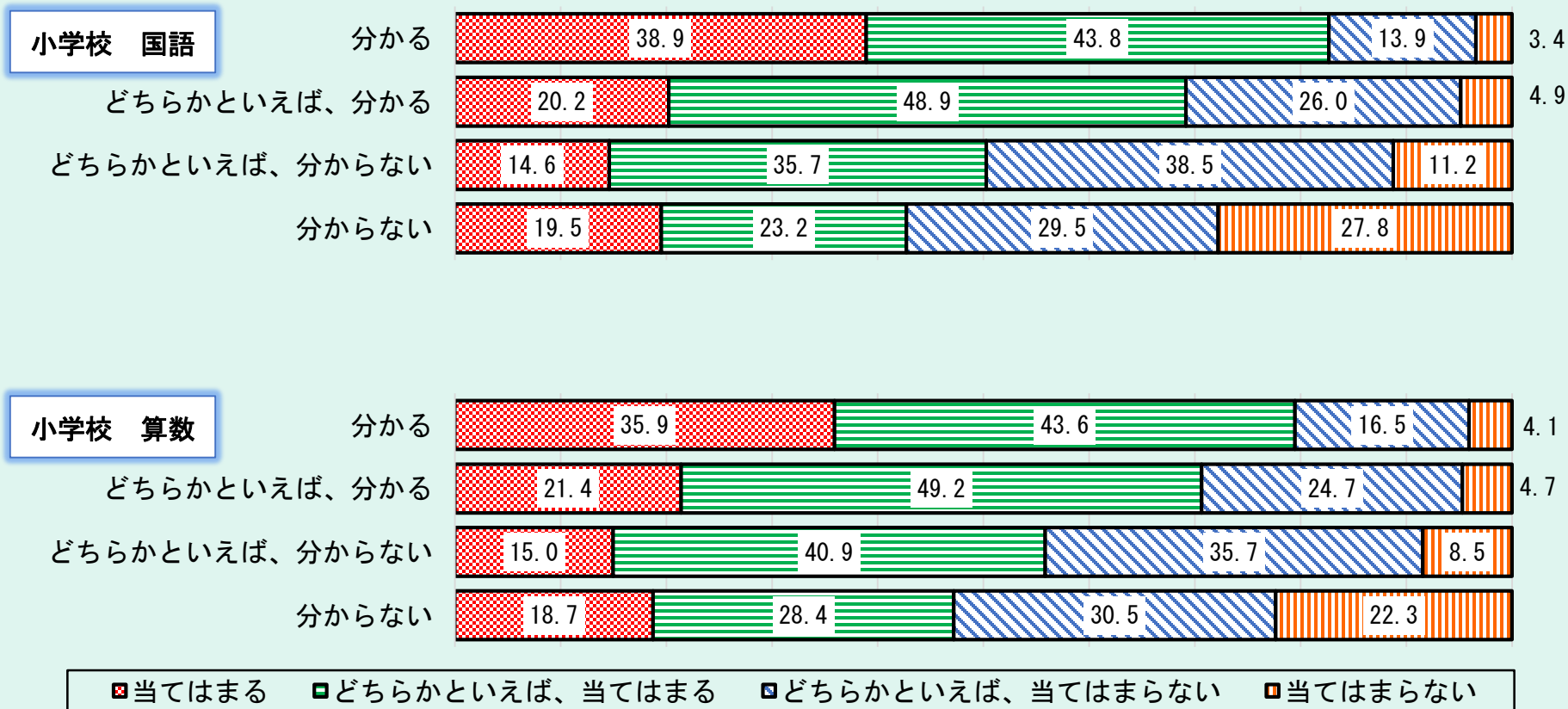


「教科の勉強が分かる」と回答している児童ほど、「5年生までに受けた授業では、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」について肯定的に回答している。

(3) 質問紙に関する調査結果

ウ 「教科の勉強が好き」と対話的な学び

【教科の勉強が分かる】と【対話的な学び】のクロス集計結果



「教科の勉強が分かる」と回答している児童ほど、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていたと思う」について肯定的に回答している。

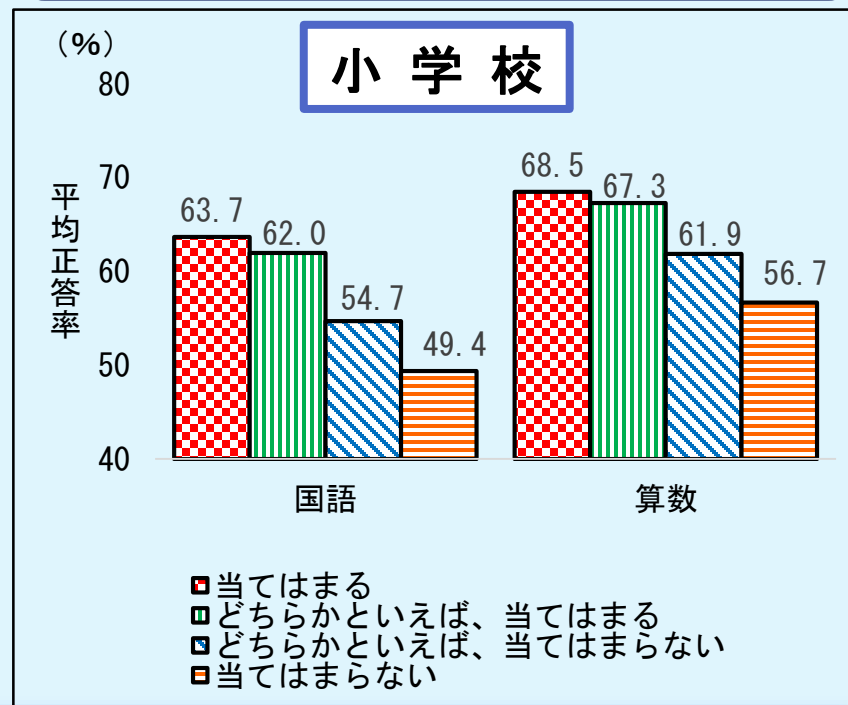
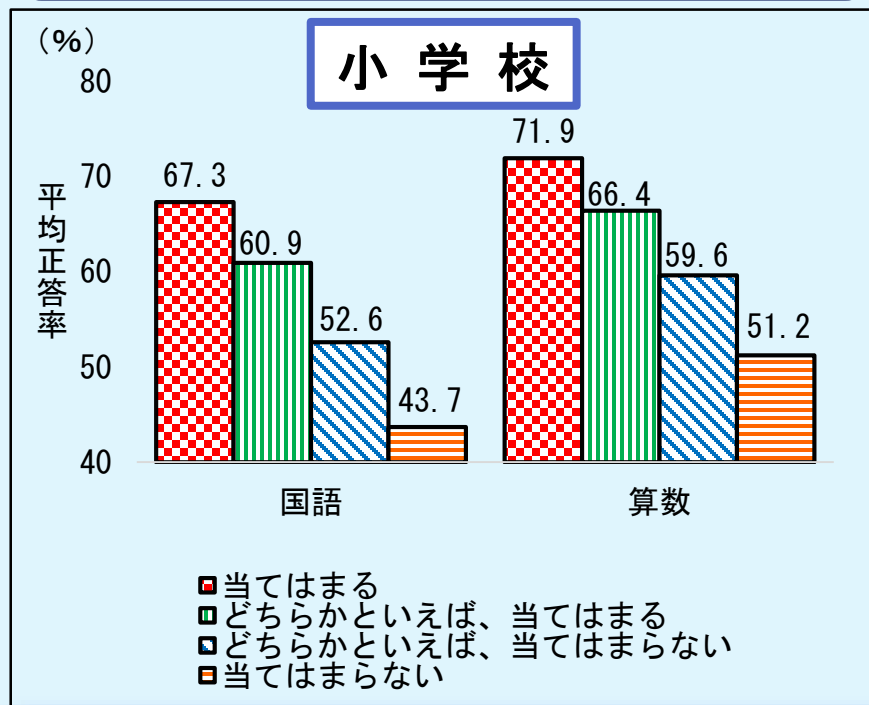
(3) 質問紙に関する調査結果

エ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

学校での学習状況と平均正答率のクロス集計結果

5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思いますか。

話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



「主体的に学習している」「対話的な学習活動をしている」と回答した児童ほど、各教科の平均正答率が高い。
→主体的・対話的な学習活動が有効である。

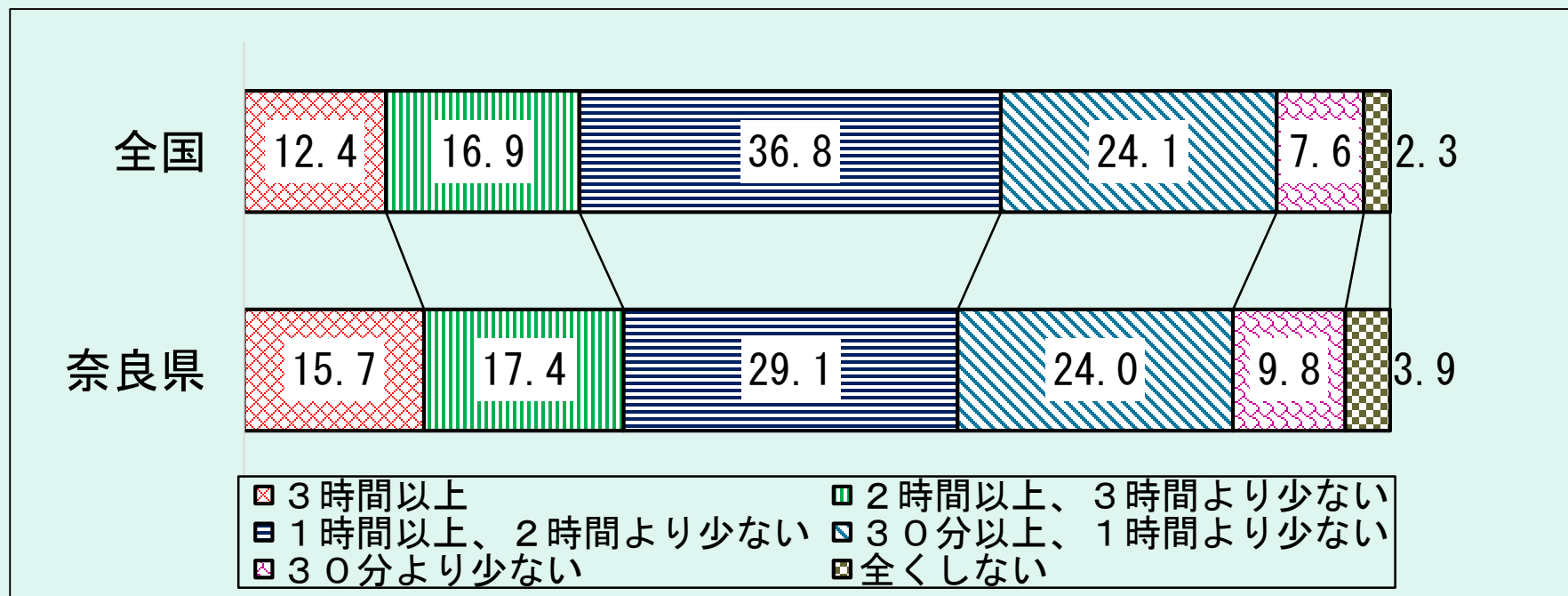
(3) 質問紙に関する調査結果

オ 学習習慣等に関する状況

授業時間以外での学習時間に関する質問項目における全国平均との比較

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

小学校



学習時間について、二極化の傾向にある。

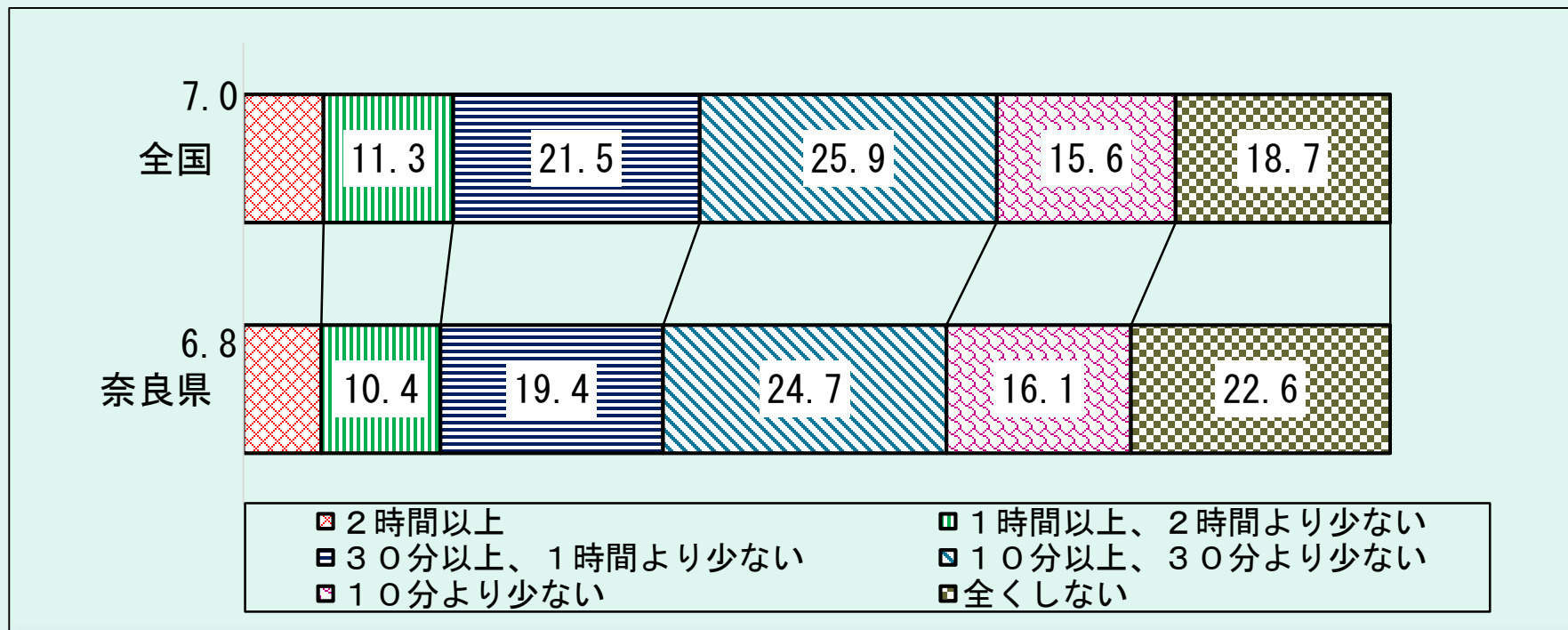
(3) 質問紙に関する調査結果

才 学習習慣等に関する状況

授業時間以外での読書時間に関する質問項目における全国平均との比較

学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。

小学校



読書時間について、全国平均との比較では、「全くしない」と回答した児童の割合が大きい。

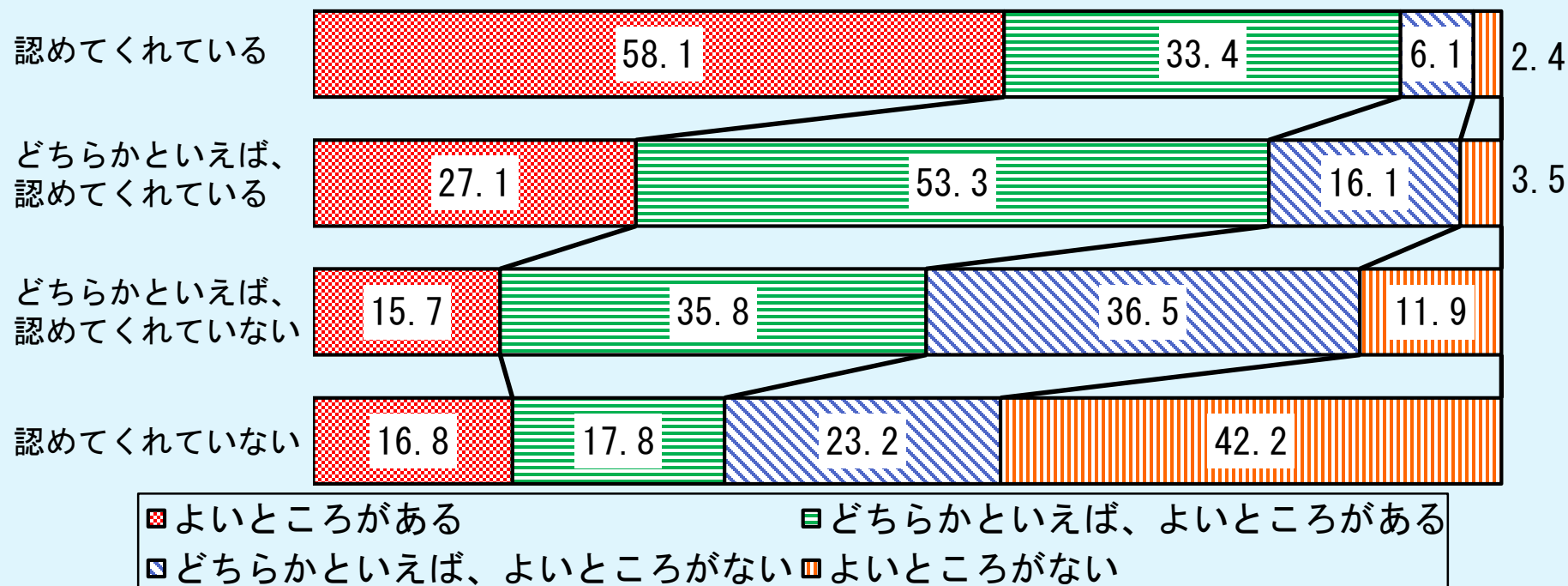
(3) 質問紙に関する調査結果

カ 自己肯定感

自己肯定感に関するクロス集計結果

「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」と「自分にはよいところがあると思う」

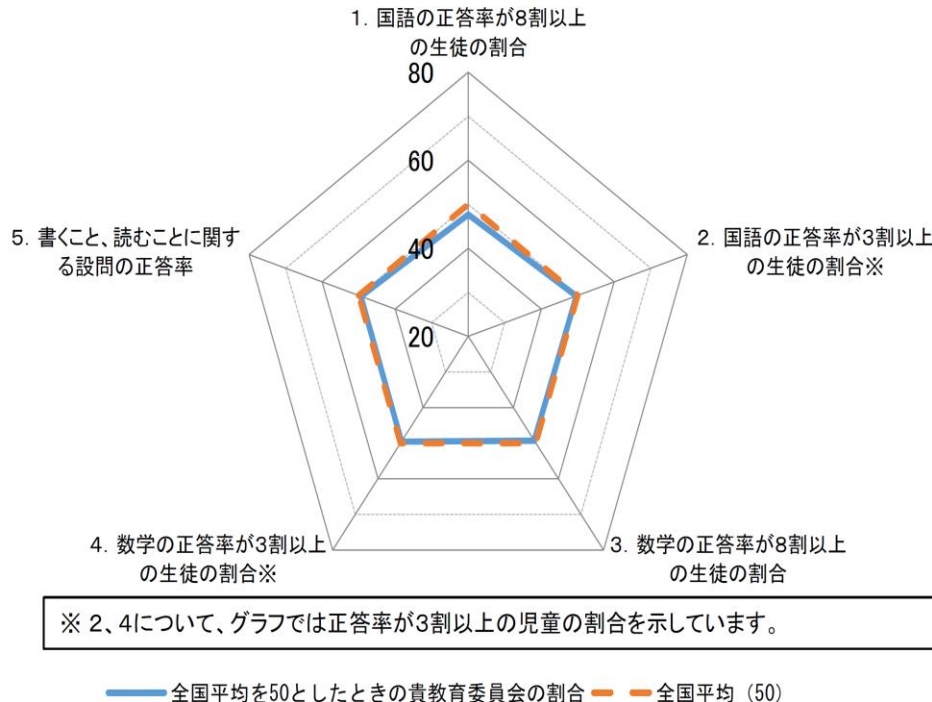
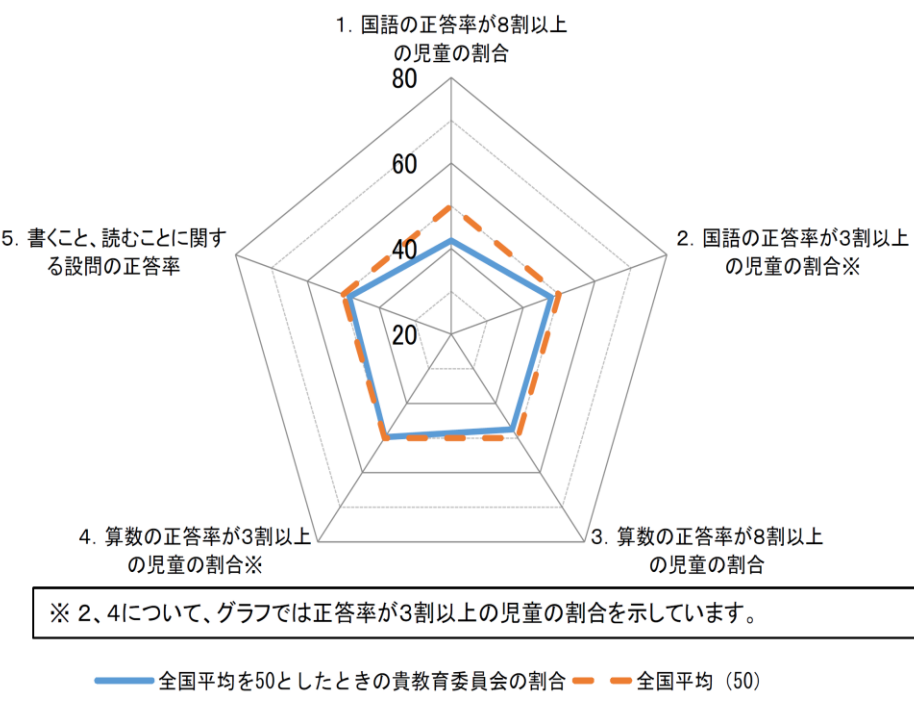
小学校



「先生はよいところを認めてくれている」に肯定的に回答した児童ほど自己肯定感が高い。

3. レーダーチャートについて

国語の正答率が8割以上、3割以下 算数・数学の正答率が8割以上、3割以下 書くこと、読むことに関する設問の正答率

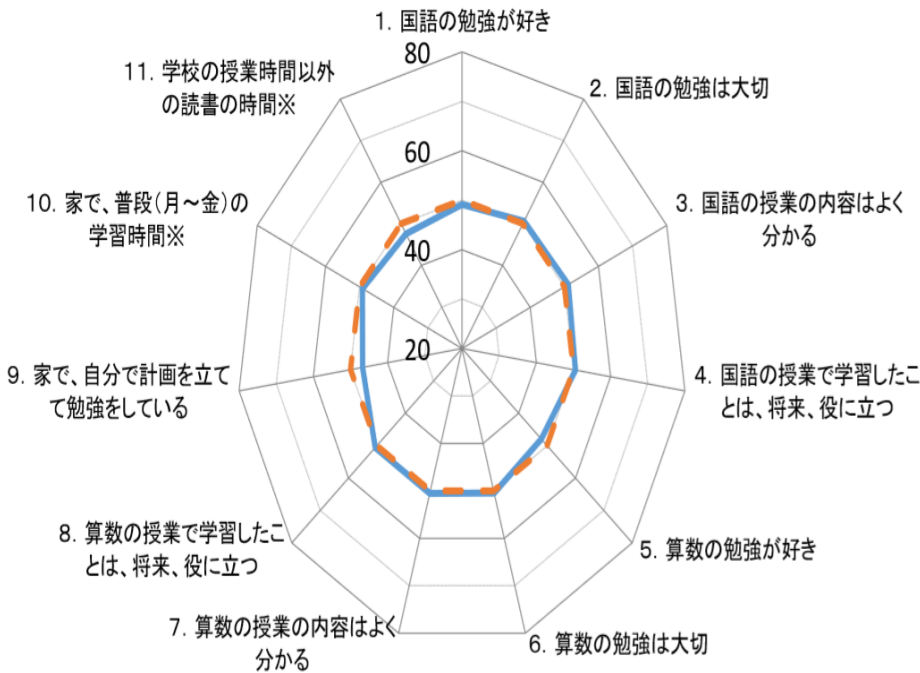


小学校

中学校

各学校の状況を把握した上で、今後の指導改善に役立てていただきたい。

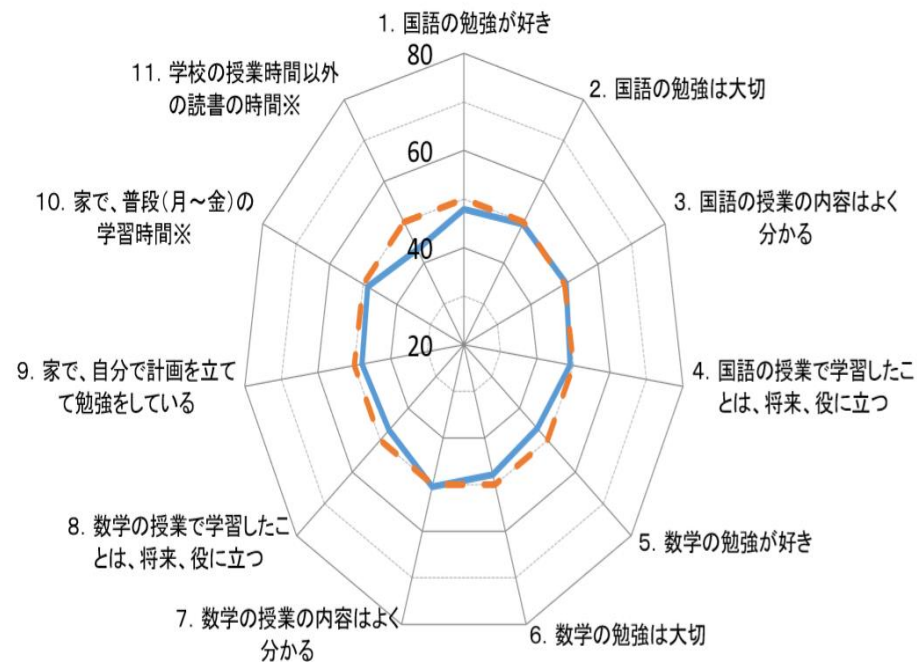
1. 国語の勉強が好き ～ 11. 読書をする時間



※10、11について、「全くしない」と回答した児童を除く児童の割合を示しています。

— 全国平均を50としたときの貴教育委員会の割合 - - 全国平均 (50)

小学校

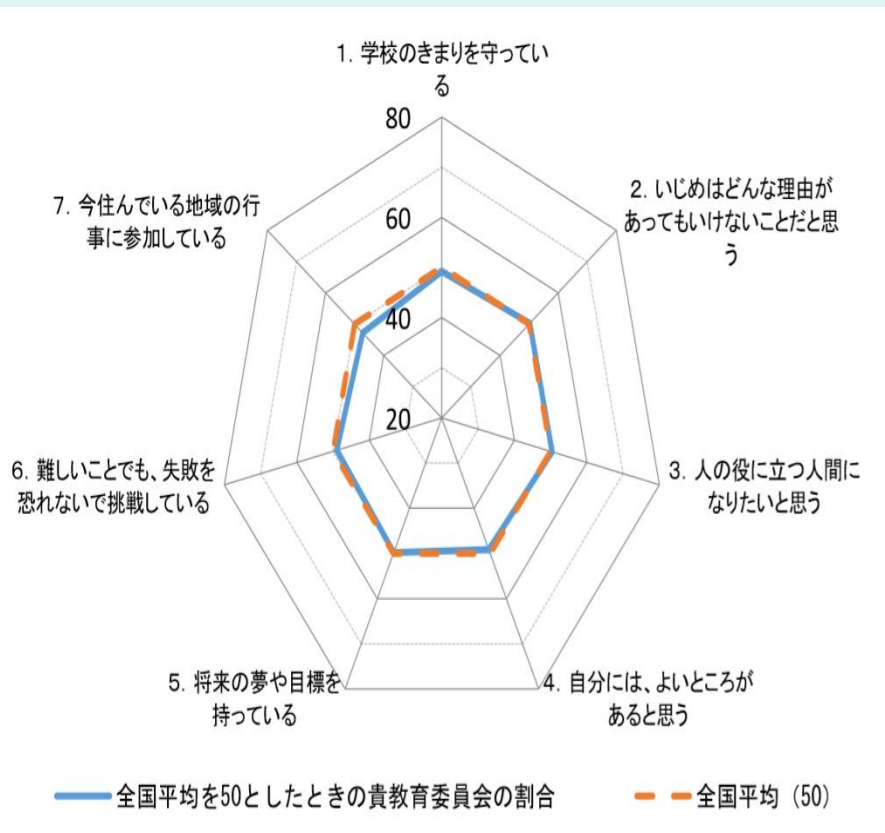


※10、11について、「全くしない」と回答した生徒を除く生徒の割合を示しています。

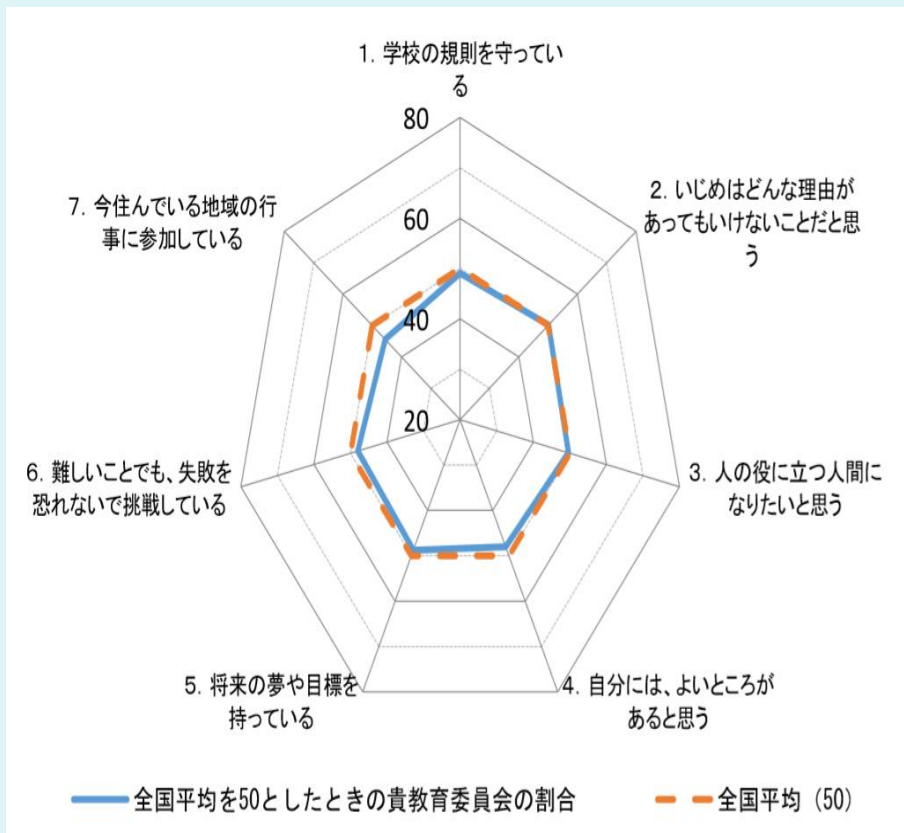
— 全国平均を50としたときの貴教育委員会の割合 - - 全国平均 (50)

中学校

1. 学校のきまり(規則)を守る ~ 7. 地域の行事に参加している



小学校

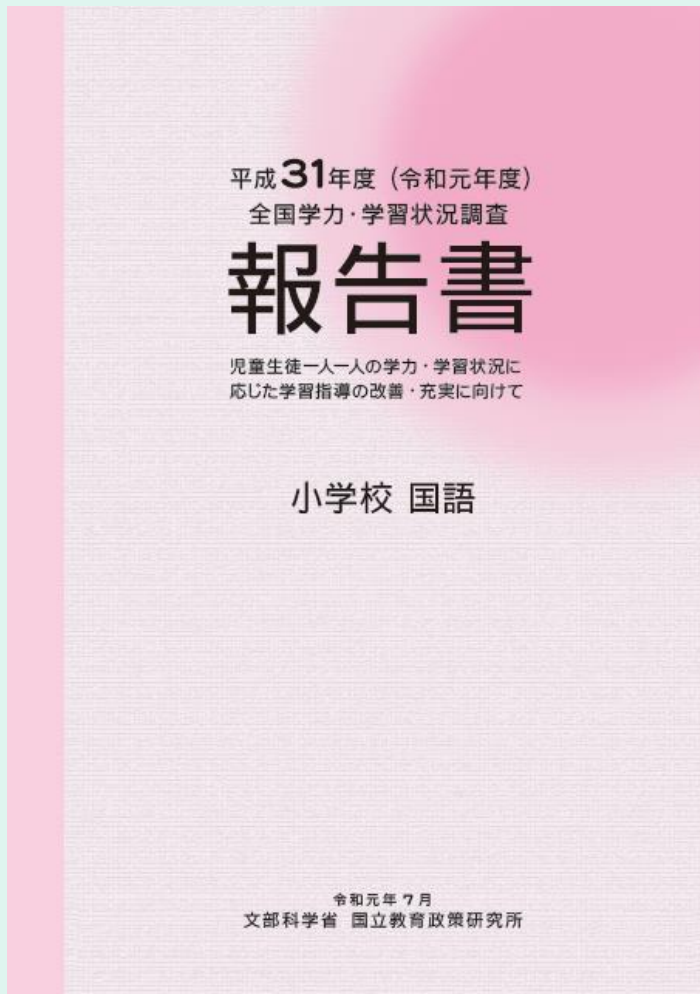


中学校

4. 先生方をお願いしたいこと

- 1 「学校に行くのは楽しいですか」等、学校適応に関する質問紙調査の結果を児童理解につなげ、必要な手立てを講じること。
- 2 無解答から見られる個別の実態や全体の状況を把握・分析し、必要な手立てを講じること。
- 3 学力調査の結果を活用して、授業改善や指導改善に努めること。
- 4 普段の学習指導を通じて子どもたちに身に付けさせたい資質・能力の育成が図ることができたかどうかを、学力調査問題の活用等を通じて見取ること。

報告書の活用



出題の趣旨

出題の趣旨

相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことができるかどうかをみる。

- 学習指導要領における領域・内容
〔第3学年及び第4学年〕 A 話すこと・聞くこと
イ 相手や目的に応じて、理由や事例など適切な言葉遣いで話すこと。

学習指導要領の
学年・領域・内容

- 学習指導要領に示されている言語活動例との関連
〔第3学年及び第4学年〕 A 話すこと・聞くこと
ア

1. 解答

問題番号

1

平成31年度 (令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた 小学校

授業アイデア例

「授業アイデア例」は、全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて、授業の改善・充実を図る際の参考となるよう、授業のアイデアの一例を示すものとして、国立教育政策研究所において作成したものです。

本調査で見られた課題は、調査の対象学年だけではなく、学校全体で組織的・継続的な取組によって改善を図っていくことが大切です。

「授業アイデア例」が、日々の授業や研修会など様々な場面で活用され、児童生徒の学習状況の改善につながることを期待しています。

目次

| | |
|------------------------------|---|
| 授業アイデア例の考え方 | 1 |
| 「学校生活で気になることを調べて、報告する文章を書こう」 | 3 |

報告書や授業アイデア例を活用し、授業改善のヒントに！

「報告書」は、<http://www.nier.go.jp/19chousakekkahoukoku/index.html>

「授業アイデア例」は、<http://www.nier.go.jp/jugyourei/index.htm> からダウンロードできます。